

府督總灣臺
部報情時臨

報部

昭和十四年九月二十日創刊
昭和十四年二月十一日發刊
（每月一日、十一日、廿一日發行）



第五十二號

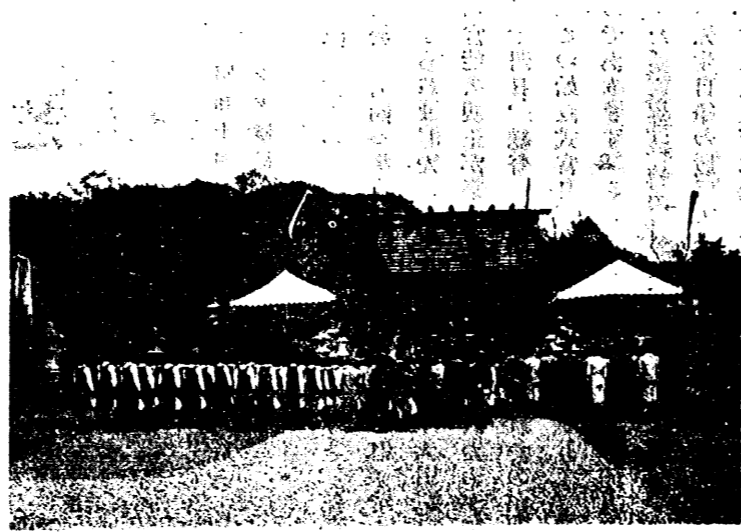
（昭和十四年二月十一日）

芝山巖精神
（臨時情報部）

本島人
知識階級
從軍座談會
（臨時情報部）

附錄 事變日誌

本島教育の發祥地



今日臺北帝國大學を始め數多の學校が全島に文化の華と咲き誇るも本島教育の第一頁はまた流血を以て彩られたのである。

殉難六士を始め殉職四百五十七氏は本島教育の爲に一身を捧げて悔いなきところが無いといふ精神の權化である。

この芝山巖精神は脈々として臺灣教育史を貫いて流れてゐる。

今や大陸に於て香り高き我が文化を宣布せんとする人々の勞苦も往時の臺灣と共に其の軌を一にする所あらんと偲はれて感慨切なるものがある。

芝山巖精神

臨時情報部

昭和十四年二月一日芝山巖祭典の夜臺北放送局より放送した原稿に
多少修補を加へたものである。

本島改隸當初の歴史をより返つて見ますと、第一代の總督樺山海軍大將が基隆港外横濱丸の船上に於て清國全權李經方これは李鴻章の息子でありました、この李經方との間に臺灣受渡の調印を了りましたのが實に明治二十八年六月二日のことでありました。それから近衛師團長北白川宮能久親王が臺北に御入城遊ばされたのが同月十一日、樺山總督が臺北に入城されたのが同月十四日、總督府の始政式を舉行されたのが同月十七日でありました。學務部長伊澤修二先生はこの始政式當日臺北に到着せられて、翌日大稻埕の一民屋に學務部の門標を掲げられたのであります。それから約十日の後即ち同月二十六日には早くも芝山巖へ學務部を移轉されました。學務部移轉の月日に就きましては異説もありますが、明治二十八年十月二十二日附伊澤修二先生自筆の履歷書中に、六月二十六日學務部を八芝園芝山巖へ移し専ら土語研究及び會話書編輯土人教育に従事すといふ一項がありますから、先づこれによつて間違はなからうと信

じます。總督府は始政式舉行以後、その各部門が清國時代の巡撫衙門であつた建物、即ち數年前までありました、あの舊廳舎の中で事務を執つてゐたのであります。學務部に限り最初から大稻埕に設けられ、それから十日もたない中にまた當時に於ては甚だ危険であり、亦不便の上もない芝山巖に移されたのであります。これは何故かといふ疑問が起るのであります。我々教育界に居りますのは大抵其の間の事情を承知して居るのであります。一般の方には今日もなほ不思議に思つて居られる方があらうかと存じます。其の當時役人の間でもなんであるところへ學務部を移すのだらうと不審に思つた人があつた程でありますから、今日と雖も決して不自然な疑問ではないのであります。その理由は全く學童を集めて教育をするといふ便宜に出たものであります。學務部を最初大稻埕へ置かれたのもその爲でありましたが、こゝではその目的を達しなかつたのであります。それは當時臺北市内に残つてゐたのは敗殘兵の片われか苦力のやうなものばかりで、子弟を集めて教育するといふやうなことは到底望みがなかつたのであります。そこで彼是と物色したあげく遂に芝山巖を選ぶに至つたのであります。教育の便宜の爲にすべての事を犠牲にしてかゝつたので、伊澤先生はその時既に生命をも賭けて居られたのであります。芝山巖へ行かれたその夜から先生はあの山上の廟内へ泊り込まれたのであります。周囲の人達は危険だからといつてしきりに止めたさうであります。先生は命がほしいやうならこんな所へ來はしないといつて平氣で居られたさうであります。實際の教育をする爲に先生が當時あのやうな艱難をなされたことは、今日から追想して益々意義深いものゝ

あることを發見するのであります。蓋し先生の御考では創業の際に於ける學事行政は机上の畫策ではいけない。須らく實際教育を基礎とすべきである。それには又自分自身の經驗が大切である。といふ御考であつたらうと思はれます。これは先生の御履歴を見れば分ることですが、明治の初年から、師範教育、體操教育、音樂教育、教科書編輯事業、吃音矯正、國家教育社の創設等各方面に創業的の活動をせられたが、總て御自身が先に立つて活動して居られます。この御氣象が臺灣教育の創業に於ても先生をして同様の經路をとらせたいものと考へられます。この實證的氣風實際的の傾向は永く臺灣教育の指針となつたやうに私には思はれるのであります。御承知の通り臺灣教育は始めから輪廓を定めて置いて、これに當てはめていくやうなやり方ではなく、一步一步實際の必要を基礎として進んで來たのであります。この事は教育令が公布されて臺灣教育の體系が出来上つたのが改隸後二十六年目の大正八年であつたことを思ひ合して考へましても、さやうに信じられるのであります。そのため臺灣教育は外見上多少進みが遅いやうに見えましても、それだけ堅實性を持つてゐたことを物語つてゐるのではないかと考へられます。

話が少し岐路へ進過ぎましたから元へ返しますが、學務部を芝山巖へ移された時、先生の部下には三宅恒徳、楫取道明、安積五郎、關口長太郎、中島長吉の諸氏がゐたのであります。それから七月に井原順之助、八月に桂金太郎、山田耕造、平井數馬の諸氏が任命されて居ります。右の内三宅、安積の兩氏は間もなく他に轉出して居りますから二十九年の暮まで在勤したのは

遭難の六氏と山田耕造氏でありました。芝山巖で伊澤先生始めこれらの人達はどんな仕事に従事してゐたかと申しますと、士林地方から生徒を募集してこれに日本語を教授することを主な仕事としてゐられたのであります。柯秋潔、朱俊英の兩君がその手始めで既に七月五、六日頃から始めてゐたやうであります。十名ばかりの生徒をとりまゝとめて正式に授業を開始したのは七月十六日でありました。授業といつても専ら國語の教授でありました。しかし参考とするものは何もありませんから、教科書なども作つては教へ教へては作るといふ状態でありました。かゝる際には誰が教育の任に當つても國語教授から始めるであらうとは想像されますが、伊澤先生が本島の教育を國語でやらうと考へになつてゐたのは、たゞ目前のことだけでなく實に深い決意があつたのであります。これは學務部長として總督へ上申された教育事業計畫の中に歴然と示されて居りますし、又十月臺南で英人パークレーといふ宣教師を訪問された時、同人は自分が永く間本島人を教育した經驗からいへば、日本語で教育されることは必ず失敗に終るから土語でやりなさいと勸告したさうであります。先生は毅然として私は必ず日本語でやり通す確信がある、他日またお目にかゝつて御忠告を受けませうといつて別れたといふのも分ります。其の後本島の教育がどこまでも國語でやるといふことになりましたのは必然であつたかも知れませんが、先生の御考がその基礎を築くに與つて力あつたことは明らかであります。今日國語普及の聲は本島の津々浦々山間僻地をも風靡し、國語の家々國語街庄が出来上らうといふ勢を示して居りますが、往時を回顧しますと誠に感慨深いものがあります。伊澤先

生バークレーを訪問されたのはそれだけを目的として行かれたのではなく、樺山總督が新政告示の爲臺南へ行かれ、その隨行として赴かれたのであります。會々その月の二十八日には北白川宮様がまかくれ遊ばされて、御遺骸が御歸還になることになりましたので、先生は臺南からそのお伴をして内地へ行かれることになったのであります。部員山田耕造氏は伊澤先生に隨行して参りました。

伊澤先生の御上京當面の用向は宮様御歸還のお伴でありましたが、又所管事項に就いて講習員の募集國語學校の開設等の用向をも帯びて居られたのであります。伊澤先生の留守を預つてゐた六氏は孜孜として務め二十八年は順調に暮らしていつたのであります。一夜明けて二十九年一月一日には不測の悲惨事が展開されたのであります。六氏は同日年賀の爲總督府へ出頭しようと思つて八時頃山を下つて、今日の明治橋の下手鐵橋のかゝつて居ります附近にあつた渡船場をさして参つたのであります。ところが、船はない、通りかゝつたもの話によると臺北には昨夜來土匪が蜂起したからとても危険で行かれないといふことであります。そこで引返して今の士林街にあつた警察官駐在所に立寄りました所、警察官は事態急であるから避難せよと勸告したのであります。然し六氏は山を捨て去るに忍びないといつて之に應じませんでした。又手を携へて芝山巖へ歸つていきました。その時は既に九時半であつたさうです。さうして種々協議しましたが、その中に匪群が襲來する形勢がありましたので、西口の方から山を下つていきました。恐らくこの時に於ける諸氏の覺悟は我等は教育の爲に來てゐるのだから、大義

名分をよく説き聞かして土匪を説き伏せてやらう、聞かずんば斃れて後已むまでだといふにやつたのであります。この事に就いては後に伊澤先生が語つて居られます。

以下は伊澤先生の御話であります。吾々は常にこの臺灣は日本が掠奪したのではない、日本の天皇陛下、清國の皇帝陛下が條約によつて受渡をされたものである。そこで皇軍に敵するものは支那の皇帝に對しても不忠なものである。大義名分を解しないものであるといふ精神で教育してゐた。當時の生徒には十分この旨をいひ含めて皇軍に敵するものを化して良民としなければならぬといつてゐた。現に六氏の中の二三人の人達が遭難の前夜士林の有力者藩の所へいつた時、藩は明日は土匪が襲來するかも知れない、危いから逃げなさいといつた處、六氏は吾々は平生生徒に向つて何と教へてゐるか、大義名分を諭して良民に化するのが我々の任務だといつてゐるではないか、匪賊が來れば彼等を説得するのが常り前である。我等は國家の爲には生命は惜まぬこれは常に覺悟して居り又さういつても居る。今吾々が逃げたとあつては教育者の本分が立たぬ。明日土匪が來たらさういふことを説き聞かせてやる。事もし成らざれば斃れて止むのみといつて悠々と山へ引きあげていつたといふことである。

伊澤先生のこのお話によつて見ても當時の六氏の態度は惚げられるのであります。不幸にして六氏は志成らず、匪賊の兇刃に斃れました。六氏と外に軍夫の小林清吉君は芝山巖の麓から士林舊街のあたりまでの間で、何れも匪賊の槍や刀にかけられて命を殞したのです。平井數馬氏の如きは僅か十九年の青年でありました、この平井氏の外は何れも死體は發見されましたが、

多くは斬首されてゐて二目と見られぬ惨状であつたさうであります。しかし六氏は平生の覺悟からいつて悔いなき最後を遂げられたのと思はれます。かやうな高潔な精神を持つて居られ、またかやうな悲壯な最後を遂げられたから、當時に於ても人々を感動させ、又畏くも天聽に達し靖國神社祀の名譽をも受けられたのであります。

伊澤先生は東京にあつてこの悲報に接せられたのでありますが、一晚泣き明されたさうであります。先生の御胸中はずもことに推察出来るのであります。然しこの事によつて先生の志は愈々奮ひ立つた事と思はれます。當時東京で募集した講習員にも一々面接してこの事件の真相を語り、かやうな所であるが承知の上で行くかと申されたさうであります。講習員諸氏は我々も身命を賭して新領土の教育に盡す覺悟であると誓ひ各々日本刀を手挟み、伊澤先生に引率されて渡臺の途に就きました。これは二十九年の四月初旬のことでありました。芝山巖は六氏が難に遭ひ、事務所や學堂も匪賊のためにさんく荒されましたから、學務部は直に臺北に移轉され學堂は一時閉鎖されてゐたのであります。講習員が到着した頃は臺北市内も大分秩序が回復し、こゝで教育するに事かくことはなかつたのであります。伊澤先生は臺北に到着されてもたゞ一泊されただけで四月十三日には率先して血なほ生臭い芝山巖に上つていかれたのであります。こゝで學堂を復興し、講習員と寢食を共にしてその養成に當られたのであります。この事實から察しても先生の決意のほどが窺はれるのであります。六氏の死を無駄にはしない、六氏の精神はどこまでも生かしてやるぞといふ堅い御決心があつたことと思はれます。講習期間

は僅か二箇月半でありましたが、伊澤先生の態度は熱烈を極め眞剣そのものであつたさうであります。講習員諸氏もその土地に来てかゝる眞剣な教育を受けたのでありますから、感奮興起することいふまでもありません。諸氏は七月一日卒業式舉行前に先づ六氏の祭典を執り行つたのであります。これより先伊澤先生の首唱によつて六氏の碑を立てることが計畫され、碑石は士林有志の手によつて近くの山から切り出され、これに折柄渡臺された内閣總理大臣伊藤博文侯の揮毫に成る碑文を刻し、芝山巖頭に今もあるあの大きな樟樹の下に建てられたのであります。

祭典舉行の前日に芝山巖西北の水田の中にあつた六氏の假塚を開いて遺骨をとり出しこれを新しい碑の下に埋めたのであります。祭典には水野民政局長、齋藤侍從武官其他官民多數來場され盛況を極めました。この時感慨最も深かつたのは伊澤先生であつたらうと思はれます。讀經が終り水野民政局長の祭文について、先生も祭文を朗讀するため肅々として祭壇の前に立たされたさうであります。先立つものは涙でたら／＼と双頬から流れ、聲はとぎれとぎれになつたので參列者一同も皆もらひ泣をしたといふことであります。祭典が終つて卒業式が行はれ四十五名の卒業生は全島各地に赴いて國語傳習所開設の任に當つたのであります。その中には六氏と同様な運命に斃れた人もあります。マリア其の他の風土病に斃れた人もあります。さて以上申上げた所によつて、略々御了解下さつたことと存じますが六士の殉難を中心として芝山巖に磅礴して居りますところの精神、本島教育の爲に一身を捧げて悔いるところがな

いといふ精神、これを我々はいついふとなしに芝山巖精神といひ傳へて来たのであります。第一回講習員の後、第二回の講習員も芝山巖上で教育され、後には國語學校今日の師範學校と引續いて本島の教育者が養成されて来たのであります。教育するものも教育されるものも皆この傳統的精神を心として神聖なる事業に従事し来たのであります。今日六氏と共に合祀されて居ります亡教育者四百五十七氏の御魂も實にこの芝山巖精神の権化であります。この精神は永へに目に見えない光輝を放つて、本島教育者の熱血を沸き立たせ、本島教育を内部から推し進める力となることと信じます。

支那事變も今や新段階に入りまして、北支中支はもとより、臺灣と一衣帯水の關係にある南支に於ても種々の文化工作が進められ、教育事業も漸次緒に就く模様であります。これらの地方に於ても、様式に多少の相違は御座いませうが、これに従事される方々の意氣即ち一身を以て教育道に殉じよう、我こそ皇道宣布の人柱とならうといふ御決心に至つては全く芝山巖精神と其の軌を一にする所があらうと存じます。この意味に於きまして今日芝山巖祭典を迎へましたことは感慨一入切なるものがあります。(終り)

本島人從軍座談會 知識階級

臺灣地方自治協會の主催にて去る一月十九日臺北市公會堂に於て過校南支派遣軍に從軍した本島人知識階級の一部有志を招聘して、身を以てその光榮を感得された其體驗談を聞くことが出来た。左記は當日の速記録である。

出席者氏名 (イロハ順)		司會者	
范炳耀氏	法學士	賴海濱氏	新聞記者
彭瑞麟氏	寫真業	吳育盛氏	自動車業
張松標氏	法學士	蔡添德氏	貿易商
陳宗雄氏	貿易商	邱雲福氏	醫學博士
劉得鑑氏	正米市場組合員	周東郎氏	司法書士
林鐘氏	新聞記者		
郭雨新氏	醫學士		
羅慶增氏	臺灣紅茶專務		

中越 それでは一寸御挨拶申上げます。

今回この南支派遣軍に従軍されました本島人の知識階級の方々が過日御歸りになりましたに付きまして、其の最も光榮ある所の従軍中の體験談を拜聴しましてさうして皆様のお話を私の方で主宰して居ります「臺灣地方行政」又情報部の發行せる「部報」にも登載して貰ひまして廣く、全局の大衆に新なる覺悟を振作したいと思ひまして御集りを願ひました譯であります。皆様御歸り早々御疲れの所枉げて御出席下さいました事を厚く感謝致します。



南の方に出張して居られますので私が代つて御挨拶を申し上げる次第であります。

なほ本日はこの座談会を進めて行きます爲に司會を情報部の大塚事務官に御願致したいと思ひますから萬事よろしく御願致します。

邱 今日總督府に居られる方々が御多忙中にも不拘、貴重な時間を割いて南支攻略の聖戦に参加を許された我々の爲に意義深き従軍座談會を御催し下さいまして有難く感謝致します。我々が南支攻略の聖戦に参加を許されたとは云へ、思ふ存分に活動する事が出来なかつたのは何よりも残念に存じて居る次第であります。今後も倍々緊張して日本國民として皇國の爲に減私奉公、皇恩の萬分の一にも報

ひ奉る様に各位の覺悟を強調したい心算であります。

大塚 主催者の方からの御指圖に依りまして私が司會者云ひますか進行係も云ひますか、今邱さんから御挨拶がありましたか、今邱さんか、い気分でないに皆様は選ばれて非常に名譽ある従軍をせられて日出席御歸りになつたのでありますから、それに付きましては二度とさう云ふ經驗をし様してもさう云ふ機會は減多にない事でありまして、又向ふに行つて居ります間には必ひ日本國民である云ふ誇り云ひますか有難い氣分を御味ひになりまして方もありませう。終生忘れる事が出来ない様な印象を御受けになつた様な事もあるだらうと思ひます。色々苦しい事も何れはあつたらうと思ひます。又こんな面白い事もあつた云ふ様な事もあると思ひますが

ごんな順序でも宜しう御座います。兎に角順序に捉はれずにお話を願ひ度いと思ひます。

それでは「應召された場合に、さう云ふ感じがしたか」云ふやうな事から段々お話を願ひ度いと思ひます。一つ邱さん……。

邱 皆様只今司會者からの仰せもありません。ついで戦地に於て見た所或は聞いた所、體験した所を腹藏なくお話しあげやうではありませんか郭さん如何でせうか。

郭 今指名されましたので慥感乍ら私が真先に應召の感想を申し上げます。豫てから前線に出て見たい氣が御座いましたので恰度私が上海出張から歸つて来た五日目に應召の通知を受けました。非常な自分の今考へて居た事は達しられて嬉しく思ひました。只應召された人が随分多かつたもんですから、殊に自分は第一線

に於て果して御國の爲に十分に手柄を立て或は十分に働く事が出来るかそれが大變心配でありました。若し十分に働く事が出来ず却つて軍の手足纏ひにでもなつたらそれこそ大變と思ひまして心配し乍ら應召しました。然しまあ戦地に出ましたらさう云ふ事もなく思ふ存分に働く事が出来まして何より嬉しかつたんです。

范 私の家は先にも應召者がありまして又私が召集を受けて一家三人出た譯であります。聖戦が北支から中支、南支に及ぶに従つて愈々我々も、南支に最も密接な關係がある此の臺灣人が、之から我等の背負ふに於て行く南支に於て聖戦に参加する機會があるだらうか、よもやと心配して居りました所、それが實現した。其の喜びは大變なものです。兎に角人間は、一私は人間生涯を通じて一度は赤襟をかけて見るべきものだと思

ひます。非常に人間が嚴肅になりま
す。我々は學校を出てからも既に
四五年になります。生活が段々規
則的から離れて放縱になりつゝあり
ます。時に突然赤棒をかけて見る。云
ふ事は、兵役の義務は豫てから覺悟
をして居りますが、非常に喜んだ譯
であります。だから其の點に於て親
子一緒に聖戦に参加出来るのは本島
人としてまことに光榮と思ひまし
た。此の際何か仕事をしなくては
灣人としても又日本人としても當然
今迄受けた御恩に對してまことに申
譯ないと非常に喜び勇んで出發した
のであります。

周 私も一言述べさして頂きます
本島人の從軍は豫てから志願する者
も澤山あるに不拘却々恵まれない機
會でありました。私が自分が事務員
として使つて居つた甥と共に一つの
家から二名出たのであります。自

敵前上陸

分を中心としてやつて居る二兄弟或
は同じ血を分けた者から澤山出たの
であります。私が非常に有頂天にな
つて喜びました。實際のまこと結婚
した時や長男が生れた時なご違つ
た一種崇高な喜びを以つて應召した
わけであります。それで短い時間に
百餘件の事務を整理し、電話も賣却
することにして、從軍中に付休業仕
り候。さういふ看板を掲げて事務所も
閉鎖して眞に滅私奉公の覺悟で出發
いたしました。さうして兵營に入つ
てから漸く我に還つた次第でありま
す。

邱 時間の關係もありませうから
敵前上陸に付て前線に行つた方から
いかゞですか。而も一番乗から
黄 自分は××××の××部隊に

配屬せられましたのは十月×日であ
りました。私共が本島人として從軍
し得た事はもう非常な感激で何もお
話する事が出来ない位でありまし
た。いざ上陸間きわで自分も軍旗を
共に上陸し得る。云ふ事を發表され
た其の晩は全く感激に打たれて一睡
もする事が出来なかつたのです。パ
イヤス灣敵前上陸であります。敵
地に敵が餘り見へなかつたのです。が
之は我が皇軍の威を恐れた敵が逃げ
て終つたであらうと思つたのです。
其の上陸してからすつと、強行軍
で〇〇に入る前は敵も相當にありま
したので相當戦つて〇〇に入城した
のは十二日午後四時頃でありまし
た。

大塚 行く時も皆一緒に行つた
です。

邱 前線部隊は直ぐ着いて上陸し
た譯です。あまのものは船の關係で

遅れて上陸した人もあります。

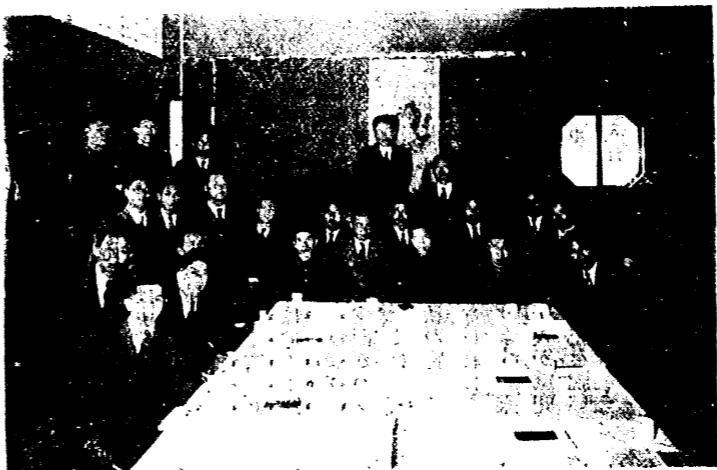
彭 敵前上陸云つても私の方
りは頼さんの方が一船先きだつたの
ですが、私が會つた時は皇軍の勇士
が裸になつて盛んに荷揚をして居つ
たし各部隊の標識が掲げてあつて方
々で銃聲が聞えて來たんです。さう
も太鼓の様に聞えるので、演習に來
たのか、お祭りに來たのか判らん様
な気分がしたんです(笑聲)皆が異口
同音に何處かに敵は居ないかを探し
たんですが、まことに敵も何も居な
かつたんです。

賴 體験の實際を申し上げます。十
月十二日午前四時でありました。軍
では尤も午前午後はありませんが、
四時に出發する。云ふ命令を受けま
してお互に甲板に集りました。其の
時は誰も言葉を發する者もなく互に
心の中で成功を祈つて口の中で萬歳
を叫び極く低い小さな聲で點呼をや

つた。それから敵前上陸した譯であ
ります。其の時、何處から打ち出し
たか判らないが、敵からか味方から
か判らないが、大砲の音がダダーン
と聞えて參ります。思はず鐵兜の緒
を締めて何とも云はれん感に打たれ
た譯であります。何分實戦に参加し
たのは始めてあります。本當に其
の時は自分の考へましては愈々上陸
した時には自分の命はもう無からう
と斯う覺悟した時に思はず涙がハラ
／＼と出たのであります。それ云
ふのは申し遅れましたが私の届して
ゐたのは職務上前線に出なければな
らん使命を有つた隊であります。乗
船してからあま、戦友の一人が鐵兜
が餘り重かつたので一寸鐵兜を脱い
で一息入れて居つた所が、馬鹿、
何故脱ぐか。怒られた、ハハア怒
られる所を見ると餘程危険が伴つて
居るんだなと思ひました。それに大

砲の音が引續きやつて居るんですか
ら、愈々上陸してからは敵だ。確信
がついたと思つて居る中に舟が岸に
着く、例の白砂の灘邊に飛び降り
た。まだ誰も上陸した形跡はない、
或は地點が間違つたんではなからう
かと思つた。衛兵警備に着けとい
ふ命令だ。其の時の衛兵は××名で
したが、皆緊張した氣持で以てすば
やく警備につかれた。そして第一
線、第二線、第三線と別に異常はな
い。云ふ事が聞かされた時には自分
も始めて幾らかの安心を得た譯であ
ります。それから後直ぐ將校殿が
「通譯來い、衛兵二名」云はれまし
て前進した。夜中ではありましたが
れ其月の光でかすかに向ふの部隊が
見えました。其の部落に向つて前進
するのであります。そして其の部落
の入口迄行くと大きな聲で誰何され
た。其の時或はつきりした言葉を聞

いたのでありますが然しそれは此の席では云ふ事は出来ません、所謂合言葉でありました。其の時に真先に腰が抜けた(爆笑)と思ひまして、魂が何處かに飛んだ様に思ひました。流石は部附の將校でありました。それにも負けない聲で返答したんです。それで始めて友軍である事が判つて其の時の安心は一生涯を通じて忘れる事が出来ないだらうと思つて居ります。しばらくして夜が明けましたら前面、眼界に入つてゐる所總てが日の丸の旗であつた。我が皇軍である、前面の山一杯を覆ふて居つたのであります。其の時の嬉しさは何に譬へ様もなかつたのです頼もしさ、嬉しさで一杯になりました。之が私の上陸の状況であります。



林 私も×××部隊の××部隊に配属されて船の中から既に敵前上陸をしなければならぬ云ふ事を聞きまして其の前に色々な準備や乾麺や何や彼やを準備して、愈々上らなければならぬと云ふ事で十二時頃から、朝飯を済まして舟を降すのを待つて居りました。

邱 何時頃ですか。

林 朝の四時頃に皆乗込みましたが、私は部隊長と一緒に同じ舟で陸に上つたのは五時半頃であります。上るに共に暫く前の方に進みましたけれども部隊長のお話では「君は尖兵と一緒に道案内の者を擱へて来い」と云はれた。所で暫く先に行きます鳥の鳴聲が聞えます。それからまだ先に行く、山の上から敵の機関銃がやつて来た。敵

が居るぞ、其の時山崎中尉殿が「通譯こちらに居れ」と云はれ兵を連れて先に行かれました。約二、三十分位交戦がありました。その時始めて機関銃の弾が飛んで来る音聞いたのであります。頭の上をビュン／＼とやつて来ます。それ迄私は立つて居りました。我々は、友軍の進んで居る所を部隊長一所に双眼鏡で見えて居る、途端に弾の音がビュン／＼とやつて来た。引込め命令されたのですが、其の時の弾の音が今も耳許にある様な気がします。それが短時間の戦争でありました。其の間に日章旗も上つたし火を焚いて合圍をした居りましたから先づ部隊を集めてそれから夜明の七時過ぎになつてから又進軍した譯であります。大體此の位であります。

大塚 皆敵前上陸される頃には軍は先に上つて居つたんですね。

頼 一々〇隊が案内された様にも聞いて居りますが、さう云ふ譯じやない様です。或場所によつては陸戦隊が先に上られた時もありませうが私の知つてゐる範囲では陸軍の先發隊が敵前上陸をやるのでありますから、全部陸軍の先頭部隊が上陸して居つた様であります……。

大塚 其の一番始めに行く部隊と一緒に居つた人はあるですか。

頼 また歸還しません、前線に進んだら云ふ事は聞いて居りますが、まだ歸つた来て居りません。本當に前線部隊と一緒に上陸した通譯は茲にはまだ居らん筈であります。

黄 私の×××部隊の××本部の船はバイヤス灣敵前上陸では一番であります。私も副官と一緒に×××名乗りまして軍旗を振り翳してさうして舟で陸に向つて進發しました。其の時は十二日の午前四時頃だらう

と思ひますが、其の陸に乗着けた所が五時四十分上陸完了した譯であります。上陸してから、先發隊上陸完了、と云ふ信號を揚げて一同萬歳を三唱したのであります。さうして上陸してからバイヤス灣の近所に割合に高い山がありました。そこに××本部を設置して××長は、右翼部隊は誰、左翼部隊は誰が行き命令を出しましてさうしてそこで左翼部隊と右翼部隊との敵情を集めて更に前進したのであります。

大塚 貴方は一番早かつた譯ですか。

黄 其の時は×××部隊が一番初めでした。

林 加藤部隊の第××隊に居りましたから上陸した個所としては私の方が一番乗りをして居ります。

吳 私の方は野砲隊で、晩の二時に起床と同時に野砲を打つたんで

す。さうしてドカン云つたもんで、すから私は直ぐ副官の側に居つたので「之は敵ですか、味方の弾丸ですか」「さあ判らん(笑聲)之は愈々自分も行かなければならん云ふので、御飯を済まして舟に乗りました。一番初めに私ももう一人の中尉の方が一緒に乗つて、兵隊は要らん云ふんです。で私は「一體さうするのかな、敵前上陸をするのに兵隊は要らん」は可怪しいと考へて居りました。今一緒に歩兵の方が行つて居るから私共は道路偵察に行くんだと致して貰ひました。さて上陸はした。が歩兵部隊は一寸離れた所に上陸したので電燈も何も有つて居らないのですから飛び降りたら二人とも濡れ鼠になつてしまつた。さあ今から道路の偵察だ、然し可怪しいね。」何が可怪しい。「敵が居らんですね。」冗談じゃないさつき打つた

ぢやないか、あの時みんな追拂つてしまつたんだ。こんな事を話し乍ら暫く行くさ、一つの部落があつた。色々聞いて見た所が既に昨日から敵が逃げて終つた云ふもんで、さうから安心して二人が進んで行つた。〇〇の近く迄行つたら、そこで恰度戦闘がある云ふ事だつたので、二人は又そこから一寸バックして部隊に歸らうとしたら、こゝに居られる黄さんに出會つた。

大塚 何か敵前上陸の場合も何だつたでせうか、面白かつた事さか、困つた事なき一つ話して貰ひたいですね。

言葉はどこまで通ずるか

経験もある、濟南事變にも行つた、経験に経験を積んで何ともない。兎に角私について来い、然し私が云ふには「敵前上陸は危いから折角通譯に来て、まだ通譯の職務を果さない中に上陸早々やられたらつまらない、せめては通譯の目的を達してやらされるに越した事はない」(笑聲)「それは尤だ、部隊長は自分は絶対に弾は當らん云ふ様な自信のある方です。私共もあんな連の良隊長について行けば絶対間違はない云ふ事で安心してついて参りました。さうして暫くして居るさうい中にあそここの土民ら二三人ウロウロしてゐる。之を捕へて言葉の試験して見た所が大體言葉は通ずるので安心して部隊長に「大丈夫言葉は通ずる、然し餘り先に行くさうなるか判りませんが……」次の日から念の爲にあそここの人を連れて行きました。念

林 私に属してゐるた加藤部隊長のお話では「自分は杭州灣でも一番乗で敵前上陸した、又シベリア戦争の

の爲めに通譯に通譯を連れて行つたのであります。そして、その人間は廣東迄一緒に行動して貰つて私が歸る前に歸したんです。非常に印象深い人を連れて行つたんです。

大塚 この邊迄通じますか。

黄 惠州迄は通じます。

吳 増城邊りは廣東語と福建語と一緒に居りますね。

周 バイヤス灣から百里位迄通ずる様な所もありましたね。

吳 段々廣東に行くに従つて判らなくなつて又廣東から北に行くに従つて又判る様になります。

邱 今度の通譯では、言葉は北京語、客家語、廣州語、福建語、それから兎に角英語と云ふ工合で通譯の人々は大抵は三つか四つ、二つ以上は知つて居ります。

大塚 大體廣州と通せん様になるぢやないですか。

邱 通譯でも知つてゐる人は居ります。

張 土地の人間は皆逃げて終ふから残つた奴は地方からの出稼なんですから臺灣で使つてゐる福建語で結構通ずる。又臺灣に來語でも通ずる事もありました。

邱 バイヤス灣には大多數の水上生活者が居りまして之が汕頭から流れて來る者で僕等も福建語で之と通じた時は非常に喜んだもんで。

大塚 廣州に行くさういふ使ふ言葉は駄目ですね、普通こちらで使ふ廣東語では通せん様ですね、それも全然通せん譯ぢやないですね。

吳 廣州の言葉は總督府で發行して居るあれで……。

黄 之迄は廣東のお話は實に複雑で聞いて居りましたが今度行つて本當に複雑だ判りました。〇〇から大體十里許りの所にXと云ふ所が

御座います。それで部落の方ではお話を通じて居つたが、一寸一里ばかり行つた海岸の方で、實は其の晩副官殿さ或用を果す爲に海岸に行つた、其の時に船頭を捉へて話して見たが、之迄部落でお話を通じて居つたのに茲では通じなくなつて終つた。又それから黄沙と云ふ所があります、其處の僅か部落と部落の間は約三百米位しかありませんが、こちらは客家語、こちらは廣東語と云ふ工合で兩方の部落は往來してなかつた。こちらは客家語で通じてゐるのにこちらは廣州でなくては通じない云ふ事になる。

范 大體廣東市内に居る下層階級の者は城内に居る者さういふ話を通じて居る、まあ苦力と云ふ様なもんで、其のものが廣東の言葉を知つてゐない、さう云ふ者が相當居る。

恩賜の御酒を いただいた

周 敵前上陸に付て大部お話を承りましたが、私が皆様と變つた感想を有つてをりますから一寸述べさせていただきます。上陸する日は、前の晩に發表された。そして前の甲板上で恩賜の酒を頂いて宮城を遙拜しました。一同は此の有難いお酒を頂いてこれで敵地に於て死しても可なり云ふ満足喜びを持つたのであります。自分は及川部隊の第×船に乗る事になつて一番乗でなかつた事を非常に残念に思つてゐた。及川部隊は粵漢線を遮断する快速部隊で最も右翼の山嶽地帯を行くのであります。一番乗をする人握手してこれを送り一番乗りが上陸した云ふ信號が出た時に司令部の者から今最も危険だから萬歳を叫ぶのは注意しろ云はれ

たので口の中で小さな聲でやりました。自分の船は×人許りの兵隊さんと一緒に乗りました。鐵兜、救命袋を持たされたので云ふ云ふことになつたのか心配したのであります。行つて見るに片足が濡れた位で暢氣なものであります。杭州灣上陸の経験があるもんで三十分許りの間の休み時間に居眠りをして居る連中が澤山あつた様に非常に暢氣な大膽なものであります。(笑聲)夜が明けはなれるに先づ民情を偵察する事が使命でありましたので、鐵砲を持つた兵隊と下士官と大膽に道の知らない所を廻つて民家を尋ねたのであります。さうするに、若い者も女も男も一人も居らない、年寄しか居らない、お話をしても見るに言葉が通ずる、之なら自分は使命を果せる喜びました。此の言葉は何處迄通ずるか聞くと支那の五〇畝、さうす

る日本なら三十里の所迄通ずる、そんなら自分は何日間役に立つ云ふ事が判つたのであります。大塚 馴れて来るに偉くなつて来るね(笑聲)何か從軍中で最も苦勞した事、或は大いに手柄を立てた所を拜聴しませうか。

從軍難行路

周 快速部隊に從軍して兵隊さん苦勞した事を申しませう。私の進んだ所は山嶽地帯が多かつたんです。さうして今考へて見ますと、足袋を穿く事が行軍の爲に良い結果を收められなかつた、兵隊さんは全部軍靴を穿いて居ますが通譯は足袋でした。上陸の時に足袋を穿いて居た兵隊は大抵一日目で軍靴に代へたのであります。午前十一時頃に〇〇〇を出發した。其の日は徹夜し

て十五里歩きました。悪い道に行くに今臺灣神社の裏の劍潭山、あの位の山を越すのに實に三時間かかつた事があるんです。上る所は割合に勾配が緩かつたけれども下る時は非常な勾配で馬も下りられず山砲は車をはずしてかついだ云ふ位非常に困難した。山に登り始めたのは午前八時十分頃でしたが降りたのが一時です。自分等が着く時分には後方の者が誰も歩けない位に滑べるのです。一日目から自分は足にマメが出ました。三日目になりました。兵隊も全部マメが出ました。四日目になると、多い人には片足に八つ位少くも四つ位マメが出ました。マメの一番酷いのにあります。マメを切つて沃度丁澁を塗つて堅くして行けば宜い云ふんです。始めに切つた日は相當に皆出ましたが、翌日になると、其の下にある赤い肉の上に又マメが

出来る、之が又非常にたまらない痛いもんです。終りになります。經驗ある小隊長をして居られた准尉の方が、「こんな歩き方をしたか、歩く時は土踏子を石の上にあて、歩くのが一番宜い」云ふ事を教へて呉れたもんです。其の歩き方をしますと二日間には歩けたのであります。然し道が平坦な所になります。却つてそれが出来な様になつて、良い道が却つて悪い結果になる様な事もありました。之が最も皇軍の苦しんだ事でありました。里程は多い所は十二里、少い時でも夜一晩に八里位は行くのです。郭 僕等は〇〇〇に上陸する迄南支派遣軍の×××丸に×日も乗つたのであります。それが全部デッキに乗つたのであります。雨に洒され風が吹かれて皆行つたのであります。すが、それで大部閉口したのであります。

然し結局大きな目的を遂行する前には之位の氣持は何でもない云ふ事で辛棒して行きました。それから今迄すつと何だか訓練も受けずに始めて軍隊生活を経験して、重い背囊を背負つた時も相當に苦痛を感じました。一番苦勞したのは〇〇〇でありました。其の荷物運搬であります。私は×××の××部で人員が一番少いので、××部では私眞先の一乗乗をしましたが荷物が相當多數ありました。曹長一人、通譯小使等で四人、それで三十五箇の大きな行李を運ぶ事になりました。今迄苦勞した事のない又擔いだ事のない自分の事ですから、さうかしらと思つてあれを兎に角擔いだのですが、段々肩が張りました。二回、三回目になると、肩の皮がむけて來ました。五六回目からは腰が立たんで(笑聲)

もう、ちつとも歩けなくなつた。然し、之も國の爲だと思ひまして又擔ぎましたが、今度は罌丸が痛くなりまして、(笑聲)それで當番が、手傳つてやるから云ふので長い棒を持つて来まして二人で擔がう云ふんです、向ふは向ふの肩に近い所にかけて私は遠い所にかけてたんですが、矢張り駄目です。其の翌朝移動があるんですから又運ばなければならん、それでも其の荷物を見た許りで涙が出るんです。之も國の爲だ、荷物を擔ぐ事よりは敵陣に飛び込んだ方が餘程宜いと思つたんです(笑聲)それから後は荷物を見る度に何とも云へない氣持になります(笑聲)

林 僕等も後方勤務をして居つたのでありますが、始めて兵隊から君、米を擔いで呉れ云はれた時には自分は擔げるかなあと思つたんですがやらなければならんと思つて居つたんですが、精米一俵七十五斤のもの、擔いだんですが、立上つて見るに、足がふらふらしたんです。倅に其の精米の運搬も滞りなくやつて来た譯です。之でルンペンになつても之でも食へさうに思つたんです(笑聲)

羅 實は私上陸して間もなく病氣にやられたんです。閉口しましたが、何分上陸勿々でありますので各部隊共忙しいのです。それで第一線部隊の進軍が非常に早かつたもんですから各部隊共豫定よりも變更が多かつたのであります。それに上陸勿々病氣をやつたもんですから、君、駄目じやないか、上陸勿々病氣をやつたんじや駄目じやないか、今から軍隊は移動するから薬は何處にあるか判らない、仕方がないから差當り入院しろ、云はれて、病院船に連れて行かれたんですが、所が其の病院船も移動するから、君の様な者は乗せられない、云はれた。それで野戦病院に行つた所が野戦病院には薬はまだ着いて居らん云ふんです。之が恰度病氣になつてから一週間目です。それで一週間目にやつと、薬にありついたので。私は赤痢をやつたんですが、一週間も放つて置いて何ともなかつたのであります。兎に角一週間目にやつとありついたので。そして兎に角之に堪へた云ふ事を感じて見るに、人間の意志の力、さういふものは非常に強いものである。云ふ事を考へさせられたのです。

水、水、水

邱 上陸して〇〇〇で水が無いから仕方がない汲みに行かなければならん、所がそこ迄水を汲みに行くのに往復一時間はかかる、二人で擔い

だ所が二三回擔いだあは肩の痛いこと觸られん位でした(笑聲)周 從軍中も一つ困難な事がありました。山嶽に行きます足袋が宜い、聞く所に依るに新しい道路は蔣介石が進軍の爲に作つたさうであります、狭い所では二間、廣い所では四間ありました。其の道ばかりに依つて行つては敵を掃蕩する事が出来ないで敵の居る所を擇んで進む事があります、其の時に敵が退却する、一方橋梁を澤山焼いて居つた、甚しい事になるに、一寸した谷から相當幅のある川を合せて一晩に十八箇所を焼かれた、其の焼かれた所をくぐつて行く事もありました。尤も敵前に行くんですから憐れもすらない、電氣もつけられない云ふ事で非常に進み難かつたのであります。さう云ふ様な所を夜一晩八里行く事もあります。

蔡 水の事でありませんが私の方の敵前上陸は第二位でした。然しさん、友軍が上つて来るので水の困難は一層になつた。私はX部の方に居りましたが、全部X部の方で炊事を引受けて居るので却々困難になつて来ました。初め二里許りの所から汲んで来て居りましたが、ドン、洗濯や風呂等に使用もんですから段々水の使用が多くなつて困難になつて来た。それで二里、三里の所から石油罐で擔いで来るので随分皆肩を痛めて運んだ譯です。それから之も米の事ですが七十五斤擔いだのは私も一生に初めてです。始め敵前上陸した時は二人で擔ぎましたが段々肩が痛くなりましたから一人で行くので丸い所をやつた方が良い云ふ譯で皆やりましたが其の方が幾分か楽でした。段々やつて居る中に廣東に着いた時には廣東米の一八五斤

を一人でトラックから下した時は自分乍ら強いと思ひました(笑聲)大塚 水は井戸からですか。邱 〇〇〇〇がチャンミ行つて調べてあるんです。井戸さか水溜では菌が入るから成る可く使用させない、矢張り河の綺麗な水を汲みに行かせられるんです。それが割合に速いんです。だから行軍中でも一番苦痛を感じたのは水であります。さうかするに、絶對的に煮沸しなければならんもんです。一寸した井戸なんかだ一部隊が行軍するに濁つて来るんです。之をX器で濾過して使はせるのですが、X器でも足りなくなるんです。さうするに遠い所に行つて汲んで来るんです。行軍中に一番感ずるのは飲料水であります。勿論各々軍の方でも絶對的に生水を飲むな云ふ命令があるもんです。か之には一番困つた。上陸當時はま



だ髷かつたし咽喉は干くし飲み水がないし……。

郭 飲むなよ云はれても飲んで居りました。長い間風呂に入れなかつたもんですから上流で身体を洗つて居るのを見乍ら下の方ではそれを飲んで居るんです。(笑聲)

范 ○○邊りで池の中に敵の死體が五六個ころがしてありました。瀧過したものではありませんが結局其の水でお茶を沸して飯を炊いて居りましたが、見ないなら兎に角死體の見える所の水を其の儘使つたもんですから始めて人間のスープでお茶を飲んだり(笑聲)御飯を炊いたりしました。

黃 今度の行軍中私は前線部隊の通譯として、荷物や何だかを運ぶ云ふ様な事はなかつたけれど、行軍のつらさは忘れられない、毎日マメが、四、五箇も出来て之をつぶして歩

かなければならぬ。之が晝夜兼行でやらなければならぬから、初めは辛

棒が出来ると三、四日も経てば膝が棒になつて伸ばせばあまは曲つて来ない様になつた。それでも、兵隊さんも矢張り行かなければならぬ、こちらもついで行かなければならぬが兵隊さんの方は、「さうして敵がもう少し戦つて呉れんかなあ」(笑聲)こぼす、寧ろ戦はない事を恨む位であります。さうして五、六日経つて自分の足も之以上ついて行く事が出来なくなつて落伍したので。落伍して居る者の中に××長が一人居つたので良い仲間が出来た喜びで路傍に坐つて居りました。然し此の儘では自分の部隊に追いつかないから後の方から来る自動車を探して行くんミ駄目だミ云ふので、自動車を待つたのであります。××長が乗つたらお前も自動車に乗せるミ云ふので

こちら喜んで待つて居つたが、後から来る自動車は給水班の自動車や何かで重い物を運んで居るので却々乗せて呉れない。それで××長が考へたのは此の儘では自動車で乗せて呉れないから矢張り自動車を使ふのには車輪部隊の後について行く、車輪部隊の自動車はさうしても止つてやらなければならぬから、さうしても乗る事が出来ると考へたので兎に角それを待つて、飛び乗つたんです。所が運轉手が非常に怒つて却々乗せて呉れなかつたんですが、色々お願して乗せて貰つたんです。實にそれ迄のつらさ云つたら、今トラツクに乗せて頂いた有難さは何ミも云へなかつたんです。

郭 トラツクもさう私には有難い事ありませんでした、荷物満載のトラツクの上に乗せられてそれから黄泉萬丈ミ云ふあのほこりが立つん

です。鼻は五分間も経てば砂が出る、目は開けて居られん、開いたら砂が入つて涙が出て苦しい、あたりの景色でも眺めてやらうと思つても目を開ける事が出来ない、又しつかり擱つて居らないと振り落される、又お話を依ると兩側の山から敗殘兵が砲を打つから云ふ事で少し荷物の凹んだ間に坐つて居るので、自動車も揺れるので、○○に着く迄には三人振り落された、其の上に又荷物が落ちて来るんですが却々怪我はしないもんです。振り落されても直ぐに起きて来るんです(笑聲)。落ちたが最後其の儘にして居らうものなら何にも乗りものはありませんから一生懸命又這ひ上つて来るんです、第一線に較べては贅澤は云へませんが、其の時は何とも云へません、道が悪いのと、橋がこわれかゝつて居るのを見ると實に生きた氣持はしま

せんでした。さうせ自分も無言の凱旋をする覺悟で行きましたが友達にもチャヤンと話して置きました。林、私の方は自動車の影も見事はありません。私は上陸して三日目に相當戦場がありました。私は其の朝宿營地を出て直ぐ戦場がありました。さうして其の晝頃戦争を終つて晝食して發たうかと思つたら飛行機から情報が来て○○の方に入れるらしいと云ふのです。それから早速方向を轉換して○○に入りました。○○の手前になると飛行機が又來まして其の附近には敵の相當の抵抗線があるから注意せよと云ふです。それで夕暮になつて大分暗くなりかゝつたもんですから我々本部の者は或盆地を選んで、入り込みましたけれど暫くすると、雨が降りましたし、さうしても進軍が出来ない、雨は降るし夜は大陸性ですから寒くてシャツ

の下迄濡れて終つて、それから立つ事が出来ない、立つたら上から彈丸が飛んで来るし御飯を炊く事も出来ない、さうする事も出来ないからじつと盆地の方でしやがんで居りましたが其の晩は一番寒かつた、こゝで行軍の苦勞をつく／＼感じたのであります。平素は家に居りまして風邪を引くとか何とか云ふのですが、其の時は氣が張つて居りましたから何ともなかつた。それから入城して夕飯の仕度をしてから又行軍を續けたのであります。其の間戦場が大部ありました。其の行軍中は水は大部田圃の水を飲んだもんです。そんな譯で水がないのと、も一つは夜遅く迄行軍するもんですから身體や顔を洗ふ事は減多にない。廣東に入る迄一回か二回位しか洗はない。行軍し乍ら皮がむけるんです。それから十日目に大部隊に打突つて戦争がありま

したが、其の時に私は尖兵に行つて敵情を探索したんですが、敵は山の上に居るだらうと土民から状況を聞いて居ますと、其の足下の二尺許り先から機關銃を打ち出した、それ、敵が居る」と云ふ事で大部戦つた。次の日、一日二日と續けて闘つたが、飯が炊けないので里芋を甘藷と間違へて大部食べた。食べた後に氣がついて咽喉が干いてたまらないのです。落伍をするとは後から敗殘兵にやられるから落伍しては不可んと云ふ氣が強いもんですからずつとついて來ましたが、平素家に居る時ですと、一寸城内迄行かうと思ふと、直ぐ自轉車かバスで行くと云ふ事になるが、あゝ云ふ所に行くに氣が張つて居りますから……。若し之が人間でなくて、機械でしたならば關節は皆磨滅して使へないだらうと思つて居ります。

周 水の問題で困るのは水筒が小さい。内地から來られる部隊は僕等の水筒の三倍位入る。暑い所に行くのにさうしてこんな小さいものを使ふかと笑はれたもんです。だから一日携帶した水でも次の休憩する所迄は續かない……。

邱 私も〇〇で朝の七時にトラックに乗つて水筒に水を入れて七時から晩の九時迄水筒一杯の水で途中で飲んで終つたので、咽喉が干く、トラックは疾走する飲む譯には行かないし實際つらかつたですよ。

蔣の批政を見る

頼 残る時間も既に無くなつた様であります。是非之から私の申上る事は「臺灣地方行政」及「部報」誌上を通じて我々本島人に呼びかけて貰ひたいです。上陸してから或日の事

二六

であります。上官の命令に依つて、〇〇の部落に入りました。最初、軍の任務を果してから後、私は試みに其の部落の中の小學校の年寄の教師を捉へて一寸時間があつたもんですから問答を始めた。然し其の部落に入る前に其の部落は勿論非常に貧しい農村の部落でありましたが、其の部落に入る前に水田にはまり込んだのであります。相當な深さがあつた。殆ど膝の所迄没する深さがあつた。それで其の小學校の教師に向つて、「自分は臺灣から來て居る者である。私は代々百姓である、僅かな土地は持つて居るけれど、數代前から私の代に至る迄廣くも狭くもなつて居らない。今度從軍するに當つて一命を大陸に捧げる心算で家計帳簿を弟や子供達に引渡した。其の時に發見した事であるけれども百年前の同じ所から上つたものが今日、私が引渡す今

日の収入が百倍位になつてゐる。尤も粍の高くなつてゐるせいもあるけれども殊に領臺四十年後の農村の進歩は大したものである。粍の値が上る丈でなくて、増収が非常なものである。臺灣の稻を見せたい、私の所の稻は一株に五六十本ある、然しお前の方はさうであるか、水田は非常に良い、灌溉其のものも非常に良い、さうして一株の稻からは僅かに五、六本の稻しか生へて居らない、又穂の長さが四寸位しかない、之じや恥しくはないか、臺灣の稻を見せたい位だ、之はお前達が働かないから斯うなつたのだらう。然し我が臺灣では帝國大學始め地方の小公學校に至る迄賃料を設けて農業上に關する研究をして呉れて居る、行政官廳は中央研究所を始め街庄役場に迄勸業課を置いて品種の改良や肥料の改良並に耕作の方法を授けて呉れてゐる。

る。だからこんなに立派な稻が出來上つて居る。お前の所は蔣介石云ふ人間はお前達の耕作の方法に付ては何等指導して呉れて居らないからだらう、實に惜しいもんだ。云つてやつたんです。すると、其の人は涙を流して中に引込んで行つた。何をか思つて居ると、ふへ乍ら一片の紙片を見せて居る、それを見て見る。之は廣東省の租税の領收書で民國二十七年二月に徴收した領收書であるけれども、民國四十五年迄の租税を既に徴收して居る、先取りして居る譯であります。それで御爺さん曰く、「此の通りですから働いても、只取られる許りである、さつき先生からのお話は、克く判つて居る、蔣介石の政策は間違つて居る。容共政策を取つたのも間違つてゐる、自分も若い時は矢張り百姓をやつて居つた、然し清國時

代には、大きな稻も長い穗も作つた時代もあつたけれども、蔣介石が來てからさういふものは斯う云ふ様に作つた。税金を取られて終ふから皆が働きたくなくなつて終ふ。若い者が皆出て終つて働く者が無くなつた。本當に日本と支那が提携して東洋の平和を築く云ふ事が我が中華民國に於ける人民の生きる唯一の途である事は知つて居る、然し私が一言今の様な事を申し上げたならば、余漢謀の部下に殺されて終ふ。だから何も云へないんだ」と泣き乍ら非常に共鳴して呉れたのであります。

もう一つ同じ租税の徴書であります。廣東の市内に入つてからであります。先刻もお話が出た苦力に付ての徴書であります。其の苦力は廣州市内のものではない極く下層な人間であります。其の人間はこちらの福建語でお話すれば感心に通ずる人

間であります。其の最下級の人間、車夫のお話を聞いて見た。廣州市内には六千臺の人力車がある、六千臺で以て六千人の車夫が居る、それを余漢謀と吳鐵城が事變費、向ふでは之を抗戰到底費と云ふ名目でやつて居るんですが一臺の車に付て鑑札一枚に付て月八圓、年に九六圓税金として納めなければならぬ。車夫は之じや食つて行けない、それで何か合法的な脱税を企てなければならぬ。云ふのでそれをやつたのであります。さう云ふ風にやつたかと云ふに鑑札を半分返上する詰り六千臺の半分三千臺の鑑札を以て二人が共通して鑑札を使ふ、鑑札をかけないと車を外に出して營業する事が出来ないう、それで車其のものは所持しても差支ない云ふ事になつてゐるから二人が共同して營業する。さうすれば月に四圓で済む云ふ様な事にな

つてまあそれをやつた譯であります。所が余漢謀もさる者、脱税されたら困る云ふので、それなら人頭税をかけ様、まさか人の頭を二人して切つて繋ぎ合せる云ふ様な事は出来ないだらうから働く者は月三圓働く事の出来ないう者は一家族は一圓五十錢を課すると云ふ事になつた。所が車夫は家族を大抵一人か二人持つて居る、例へば妻一人あるミすれば、鑑札一枚に付て先づ四圓、それから自分が働けるから三圓、妻が働けないものとして一圓五十錢、結局八圓五十錢納める事になるので前より五十錢多く納めなければならん事になつたさうであります。これで「これからは斯う云ふ税金は出さなくて宜いでせう」と云ふから勿論宜いさ」と云ふミ、始めて安心して、之からは食へる云つて居りました。本島でも或所に行くミ事變

で、近頃大變である云ふ事を、よく聞くのでありますが、支那の民衆に較べるミ臺灣はまだ、と云ふ事を痛切に感じて、之は是非臺灣地方行政誌上を通じて大きく呼びかけて頂きたいと思ふのであります。尙其の他矢張り二三申上げた事がありますが、時間も餘りない様ですから……。

張 長い軍隊生活をやつた事がなにも不拘戦地で偉い將校の方から軍人並に取扱はれた時には非常に愉快に思ひました。次に廣東市治安維持會成立の日に復歸して来た良民が小さい日の丸の旗を手にして嬉々として中山記念堂に相競ふて集つて來る其の有様を見た時、私は非常にそれこそ本當に涙を流さん許りに彼等の爲に嬉しく思ひ、彼等が今日から本當に永遠の平和にありつかれるんだと思つた時に非常に愉快に感じま

した。

陳 愉快に感じた事は残飯を避難民に分けた時であります。自分の班長の北川曹長と一緒に部落々々に残飯をおかずで擔いで行きました。總ての部落を調べて見ましたが五十以上の年寄ミ、お爺さんミお婆さんと許りで、こちらから残飯を持つて行くミ初めは逃げて行くんです。一人引張つて來て理由を話した所が神様の様に拜んで、それからあちらこちら案内して呉れました。支那兵の逃げるときに若し日本軍が入つて來たら皆殺される云つて人民を脅迫して逃げさせたさうです。さうして自分等が二三日位残飯を配つてやりました所、それからは向ふの方で自分等の姿を見たら喜んで集つて來て、日本軍が來て良かった云つて喜んで居りました。

劉 前線の方々のお話を聞くミ私

の方は樂な方で實はパイナス灣に上つたのは十八日であります。それで敵前上陸でなくて、敵地に上つた丈でそれから廣東に入る迄は別に之ミ云ふ事ありません。又感激した事もありません、只一つ、畏くも侍從武官を御差遣になり司令部に御出でになりました。そして優渥なる勅語を賜はり且御下賜品迄頂いたのは本當に有難く思ひまして、此の御下賜品を子々孫々迄家宝になるミ信じて居ります。之が私の一番感激した事です。

愉快な事など

林 僕等は後方勤務に服して居りましたので廣東陥落の情報が入りました時は何とも云へない嬉しさでした。尙陣中で手紙ミ慰問を頂いた時も何ミも云へない嬉しさを感じまし

た尙慰問の事でありましたが特に女から送つて來ました慰問は誰も非常に喜んだのであります。何故か云ふミ劇しい軍務に服して居りますと、愛情に飢えるのは當り前ではなからうかと思ひます。

郭 恥しい様なお話であります。ミても糖分に飢えて居る時にキヤメルを一つ恵んで呉れた有難さ美味さは何ミも云へません。もう一つは三箇月振りに初めて女の顔を見た時は嬉しかつた(笑)而も其の女ミ云ふのは七十幾つのお婆さんの顔でした。之でも女ミ思つたらミても嬉しかつた(笑)

周 携帶口糧が切れました時に空から乾麵、白米等が落された時には全部隊が子供の様になつて喜んだのです。廣東を南に部隊が移動される前に、之は他の部隊に加勢に行つた時に工兵隊ミ共に渡河の爲に船を

探しに行つた。通る船を呼び寄せ、使つたのであります。英艦の旗を掲げた船と雖も、我が軍隊の前に来て、積載人員、物件、作復の時間をチャンスに届けて、御通しを願ひます。云はれた時です。第三國のものとも雖も決して日本軍の前には大きな顔が出来なかつた。云ふ事は國民として非常に嬉しかつた。

實 愈々警備について地方の治安回復を固り宣撫工作に付ての事でありますが、之迄蔣政権の苛敵謀求の下に苦しんで居つてさうして今度の聖戦には山奥の方に皆逃げて終つてゐる、支那人に此の皇軍の聖戦を理解せしめて、さうして治安維持會が組織され之を逃げて居つた支那人がこちらの口先で以て皇軍の行ひを承知し又信頼して其の日に、治安維持會の顔觸れが増えて来て終ひには、其の地方でも最も繁昌した一

部落となり、又は他の部落からも取引に来て仕舞には殆ど廣東第二位の大都會になつた様な所がありました。

吳 私の方は初めは第一線でありましたが、後になつてから第二線になつて警備につくことになつた。其の時に隊長の方から治安維持會の世話をしろ命令が出ました。それで係りの將校が二人して真先にまだ部隊の入つて居らない或一つの部落に乗込んだ。所が其の邊は日本人をまだ見た事がない人ばかりで初めは逃げ廻つて居たんです。然し言葉が通ずるものだから、いゝ事があるから、云つてやつたら寄つて来てたんです。さうして愈々、今日から治安維持會云ふものを作るから村長を呼んで呉れと云ふ事で村長を探した。其の人が村長と云ふ事が判らなかつた。其の人の云ふには、村長は居

りません。村長は避難しました。村長は何云ふ名前か。と聞くと、幾ら聞いても名前が出て来ない。おかしいと思つて身體検査をしたら其の人の名前が載つて居つた。お前が村長でないか。云ふに、實は恐くなつて自分だと云ふに殺されるんじゃないかと思つたもんですから、其の時に云つた云ふたんです。日本の今回の聖戦はお前達を相手にして戦争してゐるんじゃない、蔣介石を相手にしてやつて居るんだ。が君達は安心して自分の仕事をやり給へ。云ふてやつたら安心したらしいんです。それで一應民情を偵察して歸つたが翌日早速やつて来ました。何だらうと思つて、通譯に面會に来た人がある。云ふ事で行つて見る。前日の村長でありました。私の部落に來て治安維持會を作つて下さい。云ふ事でしたので將校二人で行つた。

所が向ふで準備が出来て居つて、發會式を早速やつた。そして一週間して巡察に行つた所が抗日気分は何處かに行つて終つて子供迄も日本を歓迎して居る様な状態でありました。それはばかりでなく私の部隊の管轄には小さい部落が八つあつて、其の八つとも自分の部落限りで治安維持會を作りましたが私の歸る頃には皆が親しんで私と一緒に部隊の所に遊びに来る。色々やりますが、殊に御正月の時には日本の方は支那の芝居を見た事がないと云ふので、之から治安維持會も出来ました。日本の新年を祝ふと云ふ意味で早速芝居をやりたいと言ふのです。所が部隊長の方ではさう云ふ事をやると一寸不可んから、やるなら町の方でやれ。云ふ事で町に行つてやつたんです。所が今迄調べて見る。芝居には抗日の劇があ

りました。が、題が引續返つて、親日劇。云ふ藝題を出したので、もう一つ學校であります。そこには學校が澤山ありましたが、そこは今迄ずつと廣東に近い、悪い教育もして居りましたが、治安維持會が來てから直ぐ今迄の教育方針を排して昔の孔子の訓へのま、ずつと教へました。それに私が、一日二時間行つて、日本語を教へる事になりました。が、箇月位で日本語が一寸話せたもんで、すから特にそれが私として嬉しかつたのです。

賴 極く簡単に私個人として非常に愉快に感じた事を申し上げます。○に於てのお話であります。命を受けまして、ガソリンの調査に出かけました。そして見事目的を達し參謀副長から御褒めの言葉を受けて、その時が最も愉快な時であつた。

皇軍と日本精神

大塚 見て來た者の感じ、見ないで非常に遠くから見ない者が幾ら此處で想像してもピツタリ來ない。向ふに行つて實戦を見て居る。戰闘精神云ひますかね、報國精神云ひますか。さう云ふものが、現れた所を見た方もありませんが……。

邱 我々が感じて居るのは行軍中或は從軍中つく、日本精神の大きに現れた所は命令一下七時半なら七時半に出發する。なる。御飯も食はずに出發する所、それから出發。云つたらすぐに装具を纏めて進軍する。さう云ふ様な状態を見る。つく、日本精神の如何に徹底して居るか。或は強く植込んであるか。云ふ事を感じたのです。

晝夜、其の間に捕虜も捕へた、私の所では一晩に三人鐵砲を擲いだものを抱き止めた事があります。さう云ふ様なもので戦意を喪つたもので換言すれば彼等は餘儀なく兵隊に出たものは澤山あるので、だから戦意を喪へば良民として扱ひ其の儘放す。彼等も危険があるから此處で保護し乍ら糧秣の運搬をしたりさせる、さうして最後の日の給料迄渡して彼等を涙の中に歸してやる。彼等にも日本精神を理解する事が出来ると思ひます。又斯う云ふ事があります。捕へて来るとさうしても物を運搬させたりする事になる、之はさうしても已むを得ん、途中で出會つた者は年齢の如何を問はず兵隊が追かけて行く、或時小学校の先生らしい者が學校の建物の中からも出て来た、支那人はヘルメットを冠つて逃げ様とした。そして走つて行くに其のヘルメ

ットを落した。兵隊を之を取つておいたら奴さん必ず歸つて来るだらうと思つて持つて居つたが之はとうとう逃げて終つて来なかつた。それから後から来た將校に其の兵隊さんは、さうしてヘルメットを取つたのかと怒られた。私達の方の軍夫達が、何を云はれたのか、さうしたのか、と尋ねたもんですから私は説明した。「日本軍は決して敵でないものの物品には一切手を觸れない。上官は絶対に許さない、之が日本の皇軍の精神である」と云ふ事を話して聞かしたのであります。さうすると彼等は非常に感激した様です。支那人の苦力を××部の方で澤山使つて居りますが、私も支那人苦力を監督する役を仰せつかつたので色々今迄の國民政府の精神なり其の他に付て聞いて見たのであります。が兎に角初め皇軍が入つて来る時は

廣東市内は殆ど市民が一人残さず逃げて終つてゐる、それで何故お前達は逃げたのかと聞くとそれは支那軍の宣傳に依つて「お前等は此處に残つて居たら殺される、又逃げなければ漢奸として殺される」と云ふ様な事で仕方なしに逃げたと云ふ事を云つて居ります。又實際だけの待遇をする、と云ふ事は世界廣しと雖も日本軍あるのみであると思ひます、それは支那人の苦力を扱ふ時に、お上の方は全然之を敗殘兵と云ふ事を考へない。之は將來支那を背負ふ所の人間として扱つて而もそれが使ふ上は於て再三再四我々に注意さし、兎に角支那人に少しの嫌味をも與へる事なく心得て使へると云はれます。苦力の云ふ事が振つて居る、今迄此の支那の方で大概初めは或約束の下に使はれますけれ共貨銀は幾ら、報酬は幾らと云ふ事を云はれま

すが、實際色々となつと、大概唯で使ふ様な事が多いさうです。所が日本はさうでなくキチンと約束の勞銀を拂ふ、キチンと時間通りに歸らして頂く。之は恐らく斯う云ふ事は支那軍では見られない事であらう。頼、實例を申し上げます。○に著いて翌朝早く參謀殿と一緒に飛行場を調査に行きました。朝早い中でありました。衛兵が二人ついて居りました。飛行場近くに行くと敗殘兵二人が居りましたので、パンくんと發砲しました。二人の中一人は斃れ一人は立上つて兩手を舉げて居つた、勿論鐵砲は握つて居りません。其の時參謀は「衛兵一人行つて捕虜にして來い、他の者は行かんで宜い」斯う仰有つたものですから一人が飛んで行つたら最初兩手を舉げて居ると思つて居た所が、近寄つて見ると手には手榴彈を握つて居つた、兵隊は困

つた。上官の命令は絶対に服従しろと云ふ事であるが、敵は手榴彈を握つてゐる、それで非常に處置に困つて自分から銃を投げて抱きついて行つて捕虜にした事がありました。が之から見ると、第一に支那の一般民衆を救ひ保護をした。第二に初めての戦闘であり而して假りに今迄鐵砲を持つた敵であつても一旦投降すると云ふ意志を現したならば彼の生命は儘に助けてやらなければならんと云ふ皇軍將士の行動は私は非常に強く心を打たれたのであります。殊に○市内に入つてから——廣東を攻略してからの第一の仕事は消防であります。第二は貧民の救済であります。第三は残り飯を作つてやります。第三は殘敵の討伐であります。斯う云ふ事も眞の我が聖戰の意義を實例を擧げて本當に一般民衆に呼びかけたいと思つて居ります。

聖戰の眞意義を知る

廣東市内に入りまして抗日と云ふよりも、毎日、日本を打ち倒すと云ふ様な教育方針、教育精神の徹底して居つた事にはあきれたのであります。此の度の事變は盧溝橋事變を發端にして起つたとは云ひますが、私が廣東市内に現れた宣傳ビラ學校の書物、街頭の廣告なんかを見ますと、あの事件がなくとも當然此の事變と云ふものは日本が起たなければならなかつた。東洋平和の爲に起たなければならん。即ち支那と云ふものは國を強くするには自國其のものを保護するのではなくして、日本を打ち倒す爲に、強くなれ、大きくなれと云ふ政治に徹底したのであります。之を日本が今迄黙つて居つたと云ふ事は東洋平和の爲に多年の

忍耐と云はるか、兎に角日本としては實に平和を愛せんが爲に今日迄支那の爲すがまゝにさせたんです。だからあの盧溝橋事件が起きた事は東洋平和の爲に幸ひであつたかも知れません。それよりあの支那の現實を見て歸つて來ると臺灣に來て居る或は日本に來て居る支那人の生活、完全には我々が保護して居る其の事を考へ比べて見ると、實に感慨無量なものがありません。之が日本精神でなくて何であるかと考へます。

竊 全く同感であります。私も上陸後直ぐ或小屋に入りました。其の小屋から五冊の本が現れました。それは廣東抗日聯盟本部から發行されたものであります。翻譯しろと云ふ命を受けましたが、翻譯して見るとよくもこんな出鱈目の嘘が云へるかと思ふ様な氣持になつたのであります。其の内容は事變が済む迄發表

を控へる事を御許し下さい。早く支那事變が起つて良かった、我國に取つてではない、相手の國に取つてもさうである、斯う云ふ方法指導されて居ると云ふ事は由々しい一大事である、之が十年後、二十年後になると、支那人を救ひ難くなりはせんかと思ひました。十年後に若し此の事變を——さう云ふ様な組織立つた抗日精神を指導されて居るからには必ず支那事變は起るべきものである之が二十年後に起つたならば我々の子孫が今日の十倍二十倍の犠牲を拂はなければならぬ。之を支那から見れば矢張り、十年、二十年後にやるとすれば救へなくなつたのと云ふ様な感じが起つたのであります。

三四
大塚 色々伺つたのであります。特に島内の大衆に斯う云ふ事を呼びかけたといふ様な事、それが控へば内地の大衆にでも宜いんですが、兎に角斯う云ふ事を我々は感した、特に呼びかけた事があれば……。

更生新支那再建の道

范 私はその問題に結びつけて一言申述べて見たいと思ひます。

元來今後の支那の建設工作は勿論東亞永遠の平和を眼目として、其の大本に則り各種の生活、經濟、外交、將又治安、文化工作の部門に當つて日支親善を大眼目としてさうして互譲、互敬の原則に従つてやらなければならぬと云ふのは之は申す迄もありません。乍併建設工作には先づ二つの點があるであります。第一に中華民國の民族は漢民族を主として居りますが、其の他の民族を網羅して居る所もありますが、漢民族を主

として考へますには、我々は之に對しては青年層、壯年層、老年層、此の三つに亘つて或程度異つた政策を採るべきではないかと思ひます。元來青年層と云ふものは多情多感の時機でありまして此の青年層に對して我々は唯征服者としての強い立場を要求しては不可い、多情多感な青年である、だから今後の日本の大陸經營に付ては先づ彼等に對しては今迄誤つて來た抗日教育、之から根本的に是正してか、らねばならぬ、元來支那は非常に廣い國であります。此の大國に於ては國內を統一すると云ふ事は非常に困難である、言語は多種多様である關係上、最も困難であつて之を統一するには一つの旗印が無くちやならぬ。それには抗日と云ふものは最も手取早く便利である、だから抗日政策としての蔣政権が其の生命を維持するのに都合がよ

かつたのです。今度日本が聖戦を進める上に於て抗日政權を旗印とする蔣政権の下に於て長い間訓育された支那大衆を訓育するには一つのイデオロギーを持つて行かなければならぬ、防共協定、さう云ふ事は支那の方には、支那民族に於ては一寸もピンと來ない、我々日本人ならばピンと來るが、支那人には來ない、先づ青年層に對して、西洋に於て數年前に黃禍論が起つて居つた、西洋人が東洋人を恐れて居つた、我々は何故に西洋人を恐れないか、黃禍論に對して白禍論が起らないか、東洋人が、餘りに儒教と佛敎の影響の下に、忍従の美德の下に永い間培はれて來た。之は東洋人として大いに考へるべき事でありませぬ。黃禍論に對する意味でなくとも要するに東亞人の東亞たる爲には白禍論と云ふものに類するものが起つても決して遅く

はないと思ひます。其の點詰り漢民族が今迄永い間奴隸的根性に押されて、白人崇拜、日本に於ても可成りさう云ふ傾向は認められますが、殊に支那大陸に於ては其の傾向は最も顯著なものがあると思ひます。それで黃禍論に對する意味に於てなかくても兎に角東亞の政治をやつて行くのには、東亞の人でなくちやならぬ。別に西洋に御何を立て、からやらないと云ふこととはないのであります。此の點我々東亞人が東亞人としての自醒めそれが自然に白禍論と云ふものに結びつきはせんかと思ひます。斯う云ふ所を一つ青年層に鼓吹するとか、宣傳をやつて指導して行くべきではないかと思ひます。

次に壯年層に對しては可成り思想も固つて居るし、それから一種の名譽、利害と云ふ打算が極めて判然り

して居る年輩でありますから此の人達に、蔣政権が良いか、或は之から本當に日本が東亞の盟主としての新しき政權の下に於てごちらが安居樂業が出来るか之を實際に、移して我々は唯靜觀すべきものであります。最後に老年層に對しては殆ど何も知らない彼等には、食べるもの、温い御飯を與へ、住むに風雨を凌ぐ住居、着るに防寒の衣服を與へれば老年層はなづいて來るのであります。此の三つの階級に對して要するに安居樂業が出来ればさせるのが私は唯一の早道じやないかと思ひます。

而上服従しても決して心服して來ないだらうと思ふ。我々の弟分を親切に指導してやる、さう云ふ寛大な氣持を見せなければならぬと思ひます。私は或時、部隊長に隨行しまして捕虜を伴つて通譯に出ましたが、さうしても此の支那人は云はない。セメント工場、硫酸工場が何處にあるかと訊いても云はない。お前が云はないと、殺してやるぞと云ふと彼は曰く僕は死んでも宜いさうせ死ぬ心算で居つたんだから殺したければ自由にやつて呉れと云ひます。支那兵は皆弱い兵隊ばかりの様であります。中には苦力でさへ死んでも云はんと云ふ人間があるのだから……之は脅しては不可んと思つて、今度は方法を變へて、一つ親切にしてやらうじやないかといふので自動車に乗せた。部隊長もボケットから煙草を出してやられた。向ふも受取

りまして、それから先づ君等は食ふに困つて居る、此の軍票を持つて行つたら鹽も砂糖も買へるからと云つて軍票を出して與へてやつた。然し今迄殺されても宜いと強く出でゐた支那人苦力も、今度は自動車を右にやれ、左にやれ、セメント工場は之で硫酸工場は之であると全部教へて呉れたのであります。林 從軍して痛切に感じた事は島民の大多數が生活の豊なのに委して進取的氣象に缺け所謂悠長さに押れて來た事は遺憾に堪へんと思ひます。今次の事變たる經濟的建設の趣旨に副つて大いに大陸に向つて發展すべきと思ひます。それから領事四十年になる今日未だに島民の精神的文化が遅れ就中皇民化の如き當局が働きかけなければならぬ様な現狀に至つては嘆しい次第であります。本島人が日本人の資格を以てやれば皇

民化云々云々様な事はないと思ひます。それから青年諸君が海外雄飛の志が乏しかつたのは間違だと思ひます。我々は何時又召集を受けなければならぬかも知りませんが平素に於て精神的、肉體的に大に鍛へておかなければならぬと思ひます。大塚 他に何かお話がありますか。

明治大帝の御製を拜誦

影 我が皇軍は強い許りではない。私の實際感じた所を平直に申します。非常に偉い方が十分に揃つて居ると云ふ事を銃後の國民は信賴していいと思ひます。唯強いさか、最後の五分間闘ふ云ふ事許りではない。幾ら我々が考へても判らん様な事があるのです。銃後の國民はこの

點十分に信賴して安心して宜いと思ひます。之は私の受けた結論でございます。周 支那に對する將來の我々の精神的理想の事に付てお話がありました。之に關して明治大帝の御製を思ひ出しましたから之を感想のかはりに拜誦致します。

國のためあだなす仇はくたくもいつくしむべき事な忘れそ

いつくしみあまれかりせばもろこの野にふす虎もなつかざらめや

目に見えぬ人の心のよろこびも聲によりてぞ聞きしられける

大塚 私司會者進行係を仰せつかつて茲に坐つて居るんですが、皆様方のお顔を初めて御目にかゝる方許

りであります。お名前も今茲で斯うして話して居る間に此の人がきたかと云ふ事を今覺へた様な次第であります。従つて進行係が一向間に合はずに邱さんに殆ど世話になりましたのであります。皆様非常に私が考へて居りましたよりは内容もあり又真面目な本當の所のお話をして頂き色々の點から見て非常に今日の座談會は貴方がたが歸つて來られて一度腹の中にある事を喋舌つて見なければと云ふ様な氣分、其の氣分を充たされた云ふ丈でなしに、我々の方から見ても非常に有難かつたと思つて居ります。時間が遅くなりましたから之で閉會致します。何か主催者の方で御挨拶がありますか。中越 さうも皆様有難ふ御座いました。それではこれでこの會を終ることに致したいと思ひます。



一月十八日

1. 空軍の爆撃

【西安】午後一時陸の空軍は赤都西安を大空襲、第八戰區司令部、第八師司令部辦事處、第七師司令部第十四路軍司令部辦事處及兵營を爆撃、赤色ルフト覆滅に凱歌を挙げ全機無事歸還。

【陝西】附近兵營及敵陣地西方の鐵橋を爆撃。

【貴州】附近兵營及敵陣地西方の鐵橋を爆撃、滿載せる鐵道材料を大破飛散せしめ更に軍事據點たる工場、電信所及附近路上の自動車群を猛襲爆撃多、大の戦果を収めたり。

【欽廉】(廣東省西南部) 同市内外に散在する重砲陣地よりの反撃を冒し同市内にある機銃陣地たる市廳舎其他軍事施設を爆撃。

【陽江】(廣東省南部) 同地附近にて建築材料を滿載せ

一月十九日

1. 空軍の爆撃

我が空軍の連続爆撃は他撃に依り潼關以東瀋池に及ぶ隴海線一帯の敵軍第八、百九兩師は西南方に退却開始

2. 空軍の爆撃

【潼關】(關中) 隴海線に急襲敵軍事施設に鐵道機車を爆撃灰燼に歸せしめたり。

【寶雞】隴海線の重要地點にして西方蘭州、南方四川貴州間と自動車道路により聯絡し、ソ聯よりの軍需補給品を集散する敵の重要兵站地なり、現在中央軍第四師が防備中なり。

【株州】(易家灣) 株州北方) 附近に於て粵漢線爆撃。

【貴陽】同地電信所、敵兵潜伏中の軍需工場及び運貨船、自動車群を銃爆撃。

【陽江】附近の倉庫二棟を爆撃。

2. 空軍の爆撃

我が大部隊中山に上陸石岐に破竹の猛進撃
石岐中山縣の主要都市にして最近支那側の南方に於ける政治、宣傳工作の根據地なり。

3. 廣東博愛會衛生班は市内各所に無料巡回診療を開始

一月二十日

1. 空軍の爆撃

【瀋池】停車場、機關庫並に附近陣地を爆撃。

【新安】瀋池の東方) 市街及停車場を爆撃、貨車を爆撃、其他隴海線の各所を破壊、洛陽以東より引揚げ中の敵の退路を完全に遮断せり。

【南陽】飛行場爆撃、滑走路破壊。

【蘭州】(株州) 萍鄉の中間驛) 我漢軍部隊〇〇機は附近の極めて熾烈なる地上砲火を御歴し、同驛橋内の建物二棟、線路數箇所、鐵橋及貨車數輛を爆撃同地方の交通機關を完全に遮断せり。

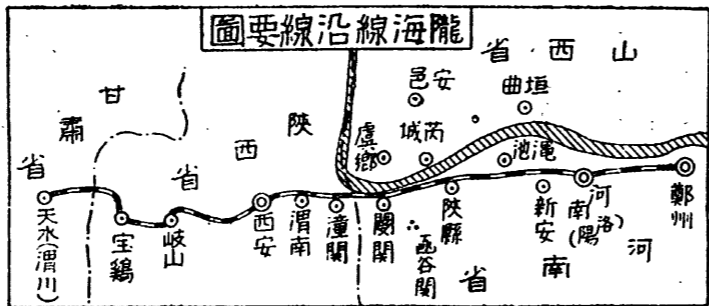
【桂林】兵營を爆撃。

【北海】同地兵營倉庫群を猛襲。

一月二十一日

1. 空軍の爆撃

【延安】(陝西省) 共產黨本部、第八路軍司令部爆撃。



一月二十二日

空軍の爆撃

【洛川】(陝西省) 第八路軍兵站部及城内外の軍事施設爆撃。

【渭南】隴海線潼關—西安間の要衝) 第一司令部、停車場、軍需工場、同倉庫及新舊市街の軍事施設爆撃。

【汕頭】(潮州) 小型軍用舟艇、列車自動車爆撃。

【陽江】(電白) 軍用運河船群を襲撃大損害を與へたり。

一月二十三日

1. 山東省北部の掃蕩戰の戦果

石友三軍の一派、共産第八路軍が山東省北部に於て民衆を煽動し抗日運動を続け居りしかば我が部隊は二十二日臨邑を進發、武定を略し濱縣に突入、二十三日城内の掃蕩を完了正午利津縣城占領。

2. 空軍の爆撃

【南陽】(河南省南部) 同市飛行場沿

走路、倉庫二棟、格納庫六棟及敵司令部を始め城内外の重要軍事施設を爆撃更に同市南方道路上に集結中の軍用トラック群約二百臺を銃爆撃飛散せしめたり。

一月二十四日

1. 中條山脈(山西省南部)の殘匪大掃蕩完了

黄河對岸の敵は關中、靈寶より黄河を渡り、中條山脈に潜入跳梁甚しかりしかば我が清掃部隊は空軍の協力の下に山岳戰術の妙を盡し僅か六日間にて一萬四千七百餘に上る敵大部隊を潰滅し、同地域より殘匪を完全に驅逐せり。

2. 空軍の爆撃

【河南】洛陽―大舉空襲第二戰區司令部及附近兵舎、停車場等を爆撃全機無事歸還。

一月二十五日

1. 河北省中部の共産八路軍の據點河間縣城、交河を占領

共産八路軍は河間縣城地方の幹線支線の道路を悉く破壊、使用不可能となし家財は一物をも餘すなく掠奪し、人口四萬を算したる河間縣城内の住民は殆んど逃亡皇軍入城の際には僅か十餘名に過ぎざりき。

2. 和順(山西省)占領

支那共産黨幹部劉伯承は和順方面に麾下の百二十九師を集結し勢力を擴大し、時折小規模にも部隊を北上せしめ、我が山西方面の軍需輸送線たる正太線の破壊を企てしかば我が部隊は十九日陽泉を出發、山又山の山岳地帯を突破し三方よりこれを攻撃、所在の敵を驅逐し二十四日遂に先頭部隊は和順に突入二十五日完全に占領、尙各部隊は南方に敗退追撃中なり。

3. 空軍の爆撃

【河南】敵陣地を猛爆。

4. 日遺親善の使命を帯びハインケル一六型乃木號

立川飛行場を出發壯途に就く

5. イスバニヤ國フランコ軍バルセロナ占領

昭和十四年二月九日印刷
昭和十四年二月十一日發行 (月三回發行)

臺灣總督府臨時情報部

臺北市榮町二丁目十五番地
印刷人 加藤 豊吉
臺北市京町二丁目四十三番地
印刷所 小塚本店印刷工場

新刊紹介

臺灣事情

昭和十三年版

定價 一圓五十錢
送料 十錢

臺灣總督府
所屬公署職員錄

昭和十三年版

定價 一圓三十錢
送料 二十錢

臺灣總督府臨時情報部發行

海南島全圖

印刷實費 三十錢

國家總動員號

國家總動員法並に
關係諸法令の解説

實價 六十錢

臺灣總督府內

發賣所 臺灣時報發行所

總發行所 金口座番號二〇七〇番
電話府內四九八番

部報 昭和十二年九月二十日第三號

昭和十四年二月一日發行 (每月一日、十一日、廿一日發行) 第五十二號